

予定通り快晴の中、新潟に行って来ました。目的は J1 昇格で熱気のある新潟の今を感じボランティア同士の交流を深めるためでした。

参加者は 10 名、マイクロバスで実に賑やかなツアーとなりました。

出かけてみて、話し合うこと、実際に見ることで理解し感じることは実にたくさんあります。何より、共通の話題で盛り上がり、次への意欲が高まるのが大切だと思います。

1. クラブハウス

新潟の訪問が決定してから、アルビレックスの HP を時々確認していました。すると 24 日、クラブの練習場に、「オレンジカフェ」というレストランがオープンしたとの情報がアップされました。

ビックスワンから約 30 分ほどの聖籠町の新潟東港エリア、ゴルフコースの向かい側に広々とした新潟の練習場があります。これからどんな施設でも追加できそうな野原が広がっており、クラブハウスの屋根はオレンジとブルーの線が入っています。昼時・ホームゲームの日で練習風景はみられませんでした。その敷地内にあるレストランは旧サッポロビール園の跡地、ということで想像通りのゆったりとしたものでした。



カフェは練習場と一体化していて、入り口にはショーケースが設置され、昨年の J2 優勝の記念の品が飾られています。高い天井の洋風レストランは全体がアルビオレンジを基調としていて、グッズコーナー、クラブハウス募金者の氏名の入ったパネル、ゲーム日程、アルビのポスターなどがきちんと掲示されています。店内には家族連れの姿がありました。

ここの最大の特徴は、選手やスタッフの食堂の機能も備えていることであり、レストランの一角が仕切られていて、そこで食事を提供しているとのことでした。

メニューは全体としてはイタリアンをベースとして「アルビレックス勝利の勝つ丼」や「粘ってねばってネギトロ丼」どというものもありました。私たちは「今日のアルビレックス選手ランチ」(選手たちの食事と同じもの)を食べましたが、さすがにボリュームがあるものでした。

やや住宅地から離れているだけに、今後は集客による経営の安定がポイントという印象を受けましたが、実に立派なものでした。

2. スタジアム

ビックスワンは会津側から車でくると市街地のかなり前から白い屋根がみえてきます。名前の通り非常に美しいスタジアムで、立地を反映して周辺に多くの駐車場を持っています。一度車をおりればスタジアムまではすぐで、あまりストレスを感じさせません。

スタジアムは公園内にあり、チューリップをはじめとするさまざまな花、水路、芝のサッカー場、広場などがあってゲームの前後に家族連れが食事をしたり、ゲームをして遊んでいる姿がみられます。ゲーム当日ということで、数多くの統一されたテントが並び、後援会受付、グッズ販売などで賑やか。中には勝利祈願の絵馬(紙製)をつけるだけの専用テントもありました。尚、テントは最新型で折りたたみの簡単なものでした。



スタジアムへの入場は、荷物確認の1次ゲートとチケット確認の2次ゲートに分かれていて、全体としてはボランティア(黄色ジャンパー)ではなく、セキュリティー(青色)やアルバイトが担当していたようです。私たちが観戦したのは、メイン側2層目であり、通常のビルであれば4～5階、勾配のため、ピッチを囲むトラックが気にならずゲームの流れはしっかりみれました。左下がコアサポーターの席で、オレンジの応援風景がなかなか躍動感があっていい感じでした。また、キックオフ前にはバック側にビックフラッグと2枚のユニフラッグが登場するのをみました。

コンコース上は席種区分やトラブル防止のため、ゲートで自由な行き来は制限されていましたが、私たちは新潟のボランティアの方の案内で、ボラの休憩室をはじめゲーム前にあちこち見せていただきました。宮城スタジアムに比較し、3つの層に分かれているため、どこも当日の3万6千人という観客数ほど混雑している印象はなく、ゆったりとしていました。

ゲーム終了後、ほぼ30分ほどで観客がスタンドから出て、清掃がスムーズに進んでいました。私たちもお手伝いしてから5時前にスタジアムの外に出ましたが、おだやかな日ということであちこちで談笑する人々がたくさんいました。



駐車場側のスタジアムの一角に、休憩室とスポーツ展示室が作られており、2002年ワールドカップの品々や、新潟出身のスポーツ選手のメモリアルグッズが展示されていました。まだ完成したばかりとのことでしたが、3万人収容の野球場の計画も紹介されていて勢いを感じました。次はあえてゲームの無い日に訪問してみたいものです。

3. 環境取組み

新潟スタジアムは常に多くの観客であふれています。昨年からそこで「ごみ」に関する取組みがスタートしている、という情報をきき、その状況を見たいということも今回の新潟訪問の大きなテーマでした。

取組みをみてのポイントはふたつあると感じました。ひとつには参加型の姿勢、ふたつめはステップアップ

「参加型」については、実行する組織にスタジアムのボランティアだけではなく、クラブはもとより、環境市民組織、学生、行政関係まで幅広い人々が参加している点、そして、大型映像装置などで募集しゲーム後に行われている「クリーンサポーター」制度が特徴的なものでした。ごみ袋と手袋を受け取ってスタンドの清掃を手伝うというこの制度は、実際に参加してみると、充実感もあり、一緒に参加しているという気持ちだけで、連帯感が生まれる気がしました。ごみの問題は一過性のものではないだけに、いかに関わる人を増やし、意識を高めていくかが大切なのだと思います。



ふたつめは「ステップアップ」、新潟のごみへの取組みはまずは分別からスタートしています。コップの分別、ペットボトル弁当、燃えるゴミなど、親子と一緒に分別をしている姿はなかなかいいものでした。分別は第1ステップ、ここから「ごみの排出削減」の取組みに向かうのか、「排出ごみのリサイクル化」に向かうのか、次のステップが注目されます。



夜の親睦会で会った環境サークルの学生の方々がこの活動に参加して、「サッカーが大好きになりました」と明るく話していたことが、今後の取組みの今後を期待させてくれました。ちなみに、スタンドに落ちているごみは仙台ではポップコーンが多いのですが、新潟は「勝ちの種」でした。地域性を感じますね。(^^)

4. 交流

新潟との交流は98年ごろにさかのぼります。その後、2001年から参加したホームタウンサミットやワールドカップの活動を通じて、互いに何度か行き来をしました。

仙台も新潟もこの間の変化は大きく、ライバルだったこともあれば、違うリーグのこともあります。いつも気になるのは、互いの昇格や降格に際し、人として気持ちの交換ができる関係があったからでした。

毎年、交互に訪問しあってきましたが今年は仙台が訪問する番。前回新潟市陸上競技場で水戸との最終戦を観戦し、隣接する市役所の屋上から垂れ下がるビッグフラッグに感動したものでした。

その同じフラッグでしょうか、ビッグスワンのバックスタンドにひろがるのを見るのは本当にうれしいものでした。



ゲームのあとスポーツ公園内の満員のレストランで交流会を開いていただきました。あまりにも短い時間でしたが自己紹介のあと、近くの席のみなさんとごみ問題についてこれからの夢について、熱心に話し合いました。悩みがないといえば嘘になります。しかし、こうして前向きな思いを話せることが出来る限り、一歩ずつ前に進むことができるはずです。

再開を約束して乗っていったバスが出発するとき見送ってくれた姿が今も目に残っています。